

独立行政法人国立科学博物館契約監視委員会（平成 26 年度）議事要旨

1. 日時

平成 27 年 3 月 5 日（木） 10:00～11:00

2. 場所

独立行政法人国立科学博物館 中会議室

3. 出席者

（1）委員

佐野委員長、竹内委員、斎藤委員

（2）独立行政法人国立科学博物館

鈴木次長、山崎財務課長、三澤財務課専門職員、渡邊契約担当係長

原田監査・資産管理担当係長

欠席者

新井委員（事前の書類チェックを依頼）

4. 議事

（1）本年度委員会委員長の選出

（2）平成 26 年度締結した契約の検討

（3）その他

5. 概要

事務局より、平成 26 年度に契約した案件について資料（別紙）を基に説明をした。

（主な討議内容）

事：資料 1－30, 31 番は現在公告中なので、次年度に審議をする

事：【資料 3－2】セコムの契約について、当館所有のセコム装置との互換性が求められ、互換性がない場合にはその装置も含めての応札となり、新規参入者は金額面で不利になると思われる。対策として、当館所有の装置との互換性を求めず、それらの装置を含めた仕様にする等も検討する。

事：【資料 3－5】YS-11 保守契約について、これまでの会社が他の空港へ移動したが、この業者にメンテナンスできるスタッフが移った。

委：こういうものは金額ではなく重要なのは技術なので一般競争入札になじまない。

事：立ち入り制限区域の倉庫に保管しており、年数回一般公開の機会を設けている。継続的に維持費がかかるのだけどここまでのレベルのメンテナンスが必要なかどうか検討も必要かもしれない。

委：役務契約全般について、契約後に契約の内容がしっかりと履行されているかのチェックすることも重要。一者応札で同じ業者が何回も続いているような場合は特に。

委：何かトラブルとかは発生していないか。

事：【資料１－３】産業医、予防接種の契約について前回の業者があまり良くなかったため、仕様を厳しくしたら今回別の業者の一者応札となった。

委：一者応札の場合金額が高いのか安いのか分からない。相場の市場調査も必要。

事：現在実施中の地球館エスカレーターの工事等は、オリンピック効果で業界が高騰している。

委：契約はすべて財務課で集約しているのか？

事：そうです。施設関係は施設整備主幹、展示関係は常設展示担当で行っている。

委：【資料１－４】は落札率 42%と異常に安い。

事：科博への実績作りで赤字覚悟で応札したのかもしれない。これはセコムなどの機械ではなく守衛業務。筑波は昭和記念館もあり重要。新収蔵庫と研究棟を作る前は木で隠れていたが現在は外から見える。このような施設は反対派から狙われやすいので注意が必要。

委：本来は警備をしっかりと公開することも望ましいかもしれない・

委：落札率が低すぎると心配。予算の範囲しか履行しないとか。守衛などは特に重要。

事：電子入札になると業者とのコミュニケーションも取りづらく金額のみの判断で便利な反面心配な面もある。

委：落札率は目安になる。安い理由が明らかならよいが、さっきの部分は注意が必要。

委：契約監視委員会を開くと毎回「一般争入札になじまないものが多く随意契約で良いのでは」という意見がでる。

委：【資料３－１】カルミックの契約について、自動開閉式とか本当に必要な仕様なのか。金額が高いと思う。条件を緩めたらもっと応札があるのでは。仕様を検討したらどうか。

(その他)

・事務局から、委員に対し、今年度の出席についての御礼と、来年度についても引き続きお願いしたい旨を述べた。